



公益社団法人日本臨床細胞学会
2021年度第2回理事会 議事録

日時：2021年6月5日（土）18：30～19：30

場所：幕張メッセ国際会議場2階201

WEB同時開催

役員総数：42名（理事 39名、監事 3名）

出席総数：理事 38名

（理事）青木 大輔，阿部 仁，有廣 光司，伊藤 仁，伊藤 潔，井上 健，伊豫田 明，植田 政嗣，榎本 隆之，大平 達夫，岡本 愛光，小田 瑞恵，齋藤 豪，佐藤 之俊，澁木 康雄，生水 真紀夫，進 伸幸，田尻 琢磨，都築 豊徳，長尾 俊孝，中村 直哉，藤井 多久磨，前田 一郎，松浦 祐介，宮城 悦子，森井 英一，矢納 研二，山口 倫，横山 正俊，横山 良仁，若狭 朋子

インターネット会議システムにより出席

（理事）小笠原 利忠，川名 敬，羽場 礼次，廣岡 保明，三上 芳喜，森谷 卓也，渡利 英道

出席総数：監事 3名

（監事）長村 義之，佐々木 寛，土屋 眞一

（総務委員会委員）山下 博

（総務委員会幹事）星 利良，和田 直樹

（制度審議委員会幹事）佐々木 陽介

本理事会は、定足数を満たしたので有効に成立した。

議長は、本理事会はインターネット会議システムも併用して開催する旨を宣言し、テレビ会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会することと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることが確認され、議案の議事に入った。

議長：森井英一 旧総務委員会委員長の司会進行

第62回日本臨床細胞学会総会（春期大会）会長挨拶（生水真紀夫、幕張メッセ国際会議場〔現地開催〕2021年6月4日（金）～6日（日）／〔WEB開催〕2021年6月18日（金）～7月11日（日））

特にグローバルアジアフォーラムを開催できることの成果が強調して報告された。

理事長選任

満場一致をもって、佐藤之俊 理事長の選任が承認された。

副理事長選任

満場一致をもって、森井英一 副理事長（総括、事務局運営、編集）、齋藤豪 副理事長（専門医制度、専門医、臨床研究）、中村直哉 副理事長（認定試験、検査士、教育）、森谷卓也 副理事長（学術、国際交流、IAC）、岡本愛光 副理事長（財務、渉外）の選任が承認された。

各種委員会委員長等選任

常置委員会委員長、委員会内委員会委員長、理事長直属委員会委員長、理事長諮問委員会委員長、監事の選任について報告され、何れも満場一致をもって承認された。

議長：進伸幸 新総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第 23 条第 3 項で定める理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については*印を付す

本理事会の開催にあたり、*佐藤之俊 理事長、*森井英一 副理事長 [総括、事務局運営、編集]、齋藤豪 副理事長 [専門医制度、専門医、臨床研究]、中村直哉 副理事長 [認定試験、検査士、教育]、森谷卓也 副理事長 [学術、国際交流、IAC]、岡本愛光 副理事長 [財務、渉外] の挨拶および報告が行われた。

***理事長挨拶・報告（佐藤之俊）**

佐藤之俊 理事長 2 期目にあたり挨拶・報告が行われた。コロナ禍で遂行が困難な学会業務もあるが、昨年度の経験をふまえ、次世代へ業務がしっかりと受け継がれるよう、今後 2 年間、学会業務に取り組んでいただきたいことが本理事会出席者に伝えられた。前回理事会から大きな変化はないものの、今後、新体制で様々な業務が開始されることの期待感も伝えられた。特に重要な事業である資格試験に関して合理的で安全かつ意義のある運用が望まれること、そして、学術的発展や学会雑誌の充実が望まれることの報告が行われた。

***副理事長報告（齋藤豪、中村直哉、森谷卓也、森井英一、岡本愛光）**

- ・ 齋藤豪 副理事長：2 期目。専門医委員会の一員として新たな細胞診専門医の仕組み作りに取り組む。
- ・ 中村直哉 副理事長：2 期目。理事長をサポートして検査士認定試験、教育を担当する。
- ・ 森谷卓也 副理事長：2 期目。理事長のもとで国際交流を進める。今回の第 62 回日本臨床細胞学会総会ではグローバルアジアフォーラムを開催できる運びとなった。
- ・ 森井英一 副理事長：川本 前副理事長の後任。各種委員会委員長等選任の追加承認手続きを行った。

・岡本愛光 副理事長：計理委員会委員長の業務経験をふまえ、財務・渉外・広報で学会に貢献する。

前回（2021年度第1回理事会）議事録について

2021年度第1回理事会の確認が行われた。

庶務報告（2021年5月21日現在）

全会員数：12,825名

（正会員 5,663名、準会員 6,937名、名誉会員 38名、功労会員 172名、図書会員 15件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,069名（実数）

（認定：細胞診専門医 3,759名、細胞診専門歯科医 104名）

FIAC：112名 MIAC：35名

細胞検査士数：7,968名（実数）（認定 10,636名）

CT(IAC)：4,196名

物故会員（2021年4月8日～2021年6月1日）

功労会員 高井 哲 殿（高井内科）

黙禱

大会準備状況

第60回秋期大会（廣岡保明、米子コンベンションセンター BIG SHIP・米子市文化ホール、2021年11月20日（土）～21日（日））、第63回春期大会（岡本愛光、グランドプリンスホテル高輪、2022年6月10日（金）～12日（日））、第61回秋期大会（伊藤潔、仙台サンプラザホテル・ホールメルパルク仙台・ホテル仙台ガーデンパレス、2022年11月5日（土）～6日（日））、第64回春期大会（藤井多久磨、名古屋国際会議場、2023年6月9日（金）～11日（日））、第62回秋期大会（横山正俊、福岡国際会議場・福岡サンパレスあるいは、マリンメッセ福岡、2023年11月4日（土）～11月5日（日））の準備状況に関する報告が行われた。

業務執行報告（各種委員会申し送り）

総務委員会（前委員長 森井 英一）

〔事業計画〕

1. 学会内、他学会、他団体との調整を行い、円滑に学会運営が行われるようにする。

〔事業報告 2019年・2020年〕

1. 他団体からの周知依頼に対応した
2. 緊急事態宣言中にテレワークを行うことで、残業の減少、自主的な作業習慣の定着が可能となった。

3. 緊急連絡方法の改善により、事案の発生後 30 分程度での対応が可能となった。

〔引き継ぎ事項〕

引き続き、円滑な学会運営のために学会内、他学会、他団体との調整を行う。

情報処理委員会（前委員長 伊藤 仁）

〔事業計画〕

学会ホームページの改善。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1. イエローページ掲載、情報開示の要請、その他のホームページへの掲載願いの対応を行った。
2. 新マイページ進捗について
昨年末より新しくなったマイページは、現在までに大きな苦情は特になく、年会費支払い状況・学会参加状況・セミナー等参加状況については、なるべく早く掲載できるよう検討・準備中である。

〔引き継ぎ事項〕

継続的に学会ホームページの見直し・改善を行う。

学術委員会（前委員長 前田 一郎）

〔事業計画〕

1. 2021 年度 学会賞・技師賞・班研究課題、最優秀論文賞の募集及び選考を行う。
締め切り：7 月 1 日（木）
2. 班研究等に対するグラントナンバーを作成する。
3. 「学術集会のあり方・申し合わせ事項」を Web 開催に即した形式に変更する
4. 福島県県民健康調査病理診断コンセンサス会議からの要望書への対応

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1. 2020 年 最優秀論文賞
日文：該当なし
英文：大河戸光章先生 論文「Koilocytic changes are not elicited by human papillomavirus genotypes with higher oncogenic potential. J Med Virol. 2020;92:3766-3773.」

〔引き継ぎ事項〕

1. IAP 病理診断学術奨励賞選考委員会の選出（学術委員会から 1 名）

2. 「学術集会のあり方・申し合わせ事項」をWeb開催に即した形式に変更する。学術委員会を中心に関係委員会でWeb開催に即した形式への変更を進める。
3. 福島県県民健康調査病理診断コンセンサス会議からの要望書に対応する。

計理委員会（前委員長 岡本 愛光）

〔事業計画〕

1. 学会の経理について、正しく運営されるよう確認を行う。
2. 決算案、予算案の作成を行い、春・秋と2回の監査会を行い会員に報告をする。
3. 報酬等の支給及び支出基準の更新および経理基準を作成していく。

〔事業報告 2019・2020年〕

1. 2021年度の予算案を作成した。
2. 2021年4月上旬に2020年度収支決算の監査会を行った。

〔引き継ぎ事項〕

特になし

編集委員会（前委員長 矢納 研二）

〔事業計画〕

1. 年間6回の電子ジャーナルの刊行、依頼稿年間6本を予定。
2. 春期大会、秋期大会開催中に2回、それ以外に4回の編集委員会を開催予定。
3. 投稿規定の見直しを継続し、投稿された論文の受け入れ態勢のさらなる改善を図る。さらに、学会内外からの投稿論文数の拡充を図る。

〔事業報告 2019年・2020年〕

2020年度中に、日本臨床細胞学会誌投稿規定を、電子ジャーナルに即した内容に変更した。

〔引き継ぎ事項〕

1. アトラス社、インテルナ出版社との連携を強化し、円滑で精度の高い、投稿論文編集作業を実現させる。
2. 最優秀論文査読賞の実現

細胞診専門医委員会（前委員長 植田 政嗣）

〔事業計画〕

1. 令和3年度細胞診専門医資格更新
2. 令和3年度細胞診専門医資格認定試験

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1) 2020 年度細胞診専門医資格認定試験結果について

2021 年 2 月 6 日（土）に AP 浜松町で実施した。今年度の試験については、筆記試験および細胞診断試験（プリント問題）は従来通り、検鏡試験はバーチャルスライドで行った。総合科 95 名、歯科 3 名が受験予定であったが、コロナ禍の収束がみられず緊急事態宣言が発出された状況に鑑み、自己の判断で受験辞退した場合も受験料を変換することとし、最終的には総合科 74 名、歯科 2 名が受験した。合格率は総合科 72.9%、歯科 100%であった。バーチャルスライドを用いた試験は初めての試みであったが、運営自体は問題なく実施できた。しかしながら受験生からのアンケートをみると、改善すべき点もいくつか挙がったため、今後の課題としたい。

2) 2020 年度細胞診専門医資格更新審査について

対象者ナンバーは、0684-0773、1102-1170、1387-1446、1647-1710、2029-2159、2477-2577、2850-2961、3223-3325、8041-8045 であり、5 年毎更新の新単位制度による初めての資格更新を行った。対象者 668 名中、更新可 617 名（92.4%）、保留更新（5 年間海外在住）1 名（0.1%）、保留更新（単位不足等）11 名（1.7%）、更新辞退 27 名（4.0%）、退会申請中・退会済 8 名（1.2%）、資格失効（最終意思確認に無応答）4 名（0.6%）であった。

3) 教育研修指導医認定について

2020 年秋期大会時の細胞診専門医セミナー受講により、10 名が暫定から教育研修指導医に移行した。2020 年度内に教育研修指導医 86 名、教育研修暫定指導医 1 名を新たに認定した。また、22 名の教育研修指導医資格更新を行った。現在の認定総数は教育研修指導医 1028 名、教育研修暫定指導医 8 名となった。

4) 細胞診専門医資格認定試験施行細則改定について

細胞診専門医資格認定試験受験資格における会員歴を明確に定義した。本改定案は 2021 年 3 月 6 日開催の 2020 年度第 4 回理事会にて承認された。

5) e ラーニングについて

e ラーニングシステムを構築し 2019 年 2 月より運用を開始した。現在までに共通講習 29 コンテンツ（含 指導医講習 5 コンテンツ）、領域講習 37 コンテンツ、検査士講習 13 コンテンツをアップした。

6) サブスペシャリティー領域専門医について

日本専門医機構がサブスペ専門医の認定作業を開始した。サブスペ専門医の基本領域は 1 分野にせよとの指示がある。日本臨床細胞学会における細胞診専門医の構成は病理科 60%、産婦人科 30%、その他 10%であり、病理学会が基本領域となる。病理学会および日産婦学会内のサブスペ領域連絡協議会と審議した結果、細胞診専門医のサブスペ専門医への申請については、制度設計上、機構認定医へのハードルが高いことや、デメリットも多いことから現状では見合わせる方向となった。

〔引き継ぎ事項〕

1) 2021 年度細胞診専門医資格認定試験について

2021 年 12 月 18 日（土）に AP 浜松町にて実施予定。会場は既に仮予約済み。コロナ禍の状況を鑑みると、検鏡試験については、次回もバーチャルスライドで行わざるをえないと思われる。

2) 2021 年度細胞診専門医資格更新について

2021 年度の細胞診専門医資格更新対象者ナンバーは、0774-0899, 1171-1241, 1447-1509, 1711-1797, 2160-2274, 2578-2672, 2962-3051, 3326-3404, 8001-8017, 8046-8055 である。今年度も 5 年毎更新の新単位制度の下に資格更新を行う。2021 年 11 月中旬更新対象者に更新案内送付、2021 年 12 月 10 日（金）更新申請締め切り（必着）、WEB 申請で行う予定。

施設認定制度委員会（前委員長 廣岡 保明）

〔事業計画〕

1. 2021 年度 新規施設認定について（2021 年 4 月 30 日 申請締切）

現在までに、新規施設認定申請：8 施設、新規教育研修施設認定申請：4 施設があった。後日、審査会にて審査を行う予定。

2. 2021 年度 認定施設更新状況（2021 年 3 月 31 日 申請締切）

認定施設更新はなし、教育研修施設の更新状況 17 施設中、17 施設更新可（100%）

3. 2020 年度 年報提出状況（2021 年 3 月 31 日 提出締切）・・・2021.5.12 現在

全認定施設（858 施設）中、提出済：820 施設（95.6%）、未提出：38 施設（4.4%）

全教育研修施設（329 施設）中、提出済：319 施設（97.0%）、未提出：10 施設（3.0%）

4. 2021 年度・内部精度管理（実地調査 4 カ所）：内部精度管理 WG（浦野誠 WG 長）のもとで 2021 年 7～9 月頃実施予定（コロナ禍が遷延した場合は書類審査予定）

5. 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）：外部精度管理 WG（湊宏 WG 長）のもとで、2022 年度に実施予定（2 年毎に実施：前回は 2020 年度実施）

6. 2021 年度年報会議、内部精度管理 WG、外部精度管理 WG を行う

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1. 2020 年度新規施設認定結果：11 施設が認定可、6 施設が条件付き認定可であったが、2020 年度中に条件の改善が報告され、調査したところ条件を満たしていることが確認されたため、全 17 施設が認定可となった

2. 2020 年度新規教育施設認定結果：3 施設認定可

3. 2020 年度認定施設更新結果：65 施設中 62 施設更新完了、3 施設辞退

4. 2020 年度教育研修施設更新結果：更新施設無し

5. 2019 年度内部実地調査で違反があった国立国際医療センター病院は、2020 年度中に是正が報告され、調査にて違反の改善が確認されたため、結果は【良】に変更された

2020 年度内部精度管理はコロナ禍のため実地調査は困難と判断し書類審査を 4 施

設に行った。その結果、該当施設（徳島赤十字病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、福岡医療団千鳥橋病院、加古川中央市民病院）のいずれも、調査項目すべてにおいて良好な評価であり、総合評価【良】と判定された

6. 2020年度外部精度管理（コントロールサーベイ）を実施した。

全認定施設 852 施設の内、参加：822（96.5%）、不参加：29（3.4%）、認定廃止：1（0.1%）
結果及び解答の詳細は2021年1月に学会ホームページに掲載した

第62回日本臨床細胞学会総会（2021.6.5）で問題の解説予定である

7. 以下の検討事項を現在施設認定制度委員会で再度の審議中

- (1) 施設認定に関する施行細則・附則と精度管理ガイドラインの整理について
- (2) 施設認定に関する申請料について

〔引き継ぎ事項〕 なし

細胞検査士委員会（前委員長 加藤 久盛）

〔事業計画〕

1. 2021年度（第54回）細胞検査士資格認定試験

一次試験は2021年10月30日（土）に実施する予定。

二次試験は2021年12月4日（土）・5日（日）に実施する予定。

2. 2021年CT（IAC）資格認定試験

2021年は延期の方針となる

〔事業報告2019年・2020年〕

1. 2020年度（第54回）細胞検査士資格認定試験結果

2020年10月31日（土）CIVI研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施

521名受験者のうち4名欠席にて517名が最終受験者数

合格者318名（合格率61.5%）

2020年12月5日（土）虎ノ門ヒルズフォーラムにて実施

318名と一次試験免除117名合わせ435名受験者のうち6名欠席にて435名が最終受験者数

合格者253名（合格率58%）一次免除者199名（うちコロナ感染配慮にて次年度持越し

59名）

2020年12月11日HPにて結果発表、2021年1月15日封書にて発送済

〔引き継ぎ事項〕

特になし

細胞検査士資格更新審査委員会（前委員長 羽場 礼次）

〔事業計画〕

1. 2021 年度細胞検査士資格更新作業

138-194、364-439、760-912、1147-1353、2068-2258、2913-3119、3932-4209、4942-5134、5813-6050、6574-6748、7450-7685、8318-8612、9365-9558

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1. 2019 年度細胞検査士資格更新作業

01830～02067、02693～02912、03667～03931、04726～04941、05619～05812、06370～06573、07209～07449、08159～08317、09152～09364

2. 2020 年度細胞検査士資格更新作業

更新対象者なし

〔引き継ぎ事項〕

特になし

教育委員会（前委員長 生水 真紀夫）

〔事業計画〕

1. 細胞診断学セミナーおよび細胞検査士教育セミナー・細胞検査士ワークショップ・細胞検査士養成講習会を企画・実施する。
2. 細胞診断学セミナー実施委員会を設置して、細胞診断学セミナーの改善・管理を行う。
3. 日本肺癌学会肺がん検診委員会と共同で「喀痰細胞診標準細胞表本の管理・貸し出し業務を行う。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

2019 年度は、例年通り細胞診断学セミナーおよび細胞検査士教育セミナー・細胞検査士ワークショップ、細胞検査士養成講習会を実施した。2020 年度は、細胞診断学セミナーおよび細胞検査士教育セミナー・細胞検査士ワークショップのほとんどを Web で実施した。細胞検査士養成講習会は中止した。細胞診断学セミナーについては運営方法の見直しを行った。

〔引き継ぎ事項〕

1. 細胞診断学セミナーおよび細胞検査士教育セミナー・細胞検査士ワークショップ・細胞検査士養成講習会のうち、Web での施行のメリットが生かせるものについては今後も Web での開催の可能性を検討する。
2. 当面のセミナー開催については、必要に応じて Web 開催に変更することが承認されて

いる。

渉外・広報委員会（前委員長 小田 瑞恵）

〔事業計画〕

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1. 他学会等からの共催・協賛・後援に関する申請等について
 - ① IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞の公募の HP 掲載依頼があり、情報処理委員長に確認のうえ掲載した。
 - ② 一般社団法人シンクパールのより、「NIPPON 女性からだ会議 2021」への後援名義使用申請依頼があり、理事長 総務委員に確認し承諾した。
2. 他学会等との会議出席等について
 - ① 一般財団法人 医療関連サービス振興会 サービスマーク認定に係る審査調査指導中央委員会（令和 3 年度第 1 回）に出席した。
 - ② 一般財団法人 医療関連サービス振興会 衛生検査所専門部会に出席した（令和 3 年度第 1 回：岡 俊郎幹事）。

〔引き継ぎ事項〕

1. 渉外広報委員会が担当している他学会や諸団体等
 - ① 一般財団法人 医療関連サービス振興会 サービスマーク認定に係る審査調査指導中央委員会
 - ② 一般財団法人 医療関連サービス振興会 「医療法改正に伴うチェックリスト改定ワーキンググループ」→2021 年 9 月で終了予定
 - ③ 一般財団法人 医療関連サービス振興会 衛生検査所専門部会
 - ④ 日本臨床検査標準協議会 正会員
 - ⑤ 日本がん治療認定医機構 関連学会
 - ⑥ 日本医学会分化会医学用語委員会 代委員
2. 継続予定の業務

2020 年 6 月に細胞検査士会と細胞検査士委員会が日本臨床細胞学会会員に実施した「新型コロナウイルスによる業務への影響についての緊急実態調査」のアンケート結

果を踏まえて、HPに「新しい生活様式の中でのがん検診についての提言」を行った。今年も同様のアンケート調査を行う計画があるので、その結果を広報する予定である。

社会保険委員会（前委員長 若狭 朋子）

〔事業計画〕

1. 2022年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚労省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。

〔事業報告 2019年・2020年〕

（1）令和2年10月15日に内保連の総会が開催され、今回は2020年度改定における不合理・矛盾点が提示され、①迅速細胞診の適応拡大にかかる文言の齟齬②婦人科細胞診において診断料、診断管理加算が算定されていないことの2点が採用された。

この不合理点、矛盾点は令和2年の厚労省と内保連とのヒアリングで提出された。

（2）令和2年12月10日に内保連へ第一次提案書を提出した。

（3）令和3年4月30日に内保連に最終提案書を提出した。項目は以下の通り。

（*が不合理点、矛盾点として提出された項目）

未収載項目として

1. 感染対策加算
2. 細胞診精度管理料（*）
3. 婦人科子宮頸部細胞診自動判定支援加算
4. 国際標準病理診断管理加算

既収載項目として

1. 細胞診診断料の見直し、婦人科細胞診への適用拡大（*）
2. 迅速細胞診（検査中の場合）、適用疾患の拡大（*）
3. 免疫染色、細胞診標本への適用拡大
4. 液状化検体細胞診加算の見直し
5. 迅速細胞診（検査中の場合）、適用疾患の拡大

〔引き継ぎ事項〕

診療報酬改訂の今後のスケジュールについて

内保連によるヒアリングの実施：2021年5月13日、5月14日

内保連各委員会での最終調整後の提案書提出：2021年5月31日

提案書を厚労省に提出：2021年6月

地域連絡委員会（前委員長 伊藤 潔）

〔事業計画〕

1. 2019年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行う。

2. 地域連携組織に対する活動支援について地域学会を通して行うための申請・審査を進める。

[事業報告 2019 年・2020 年]

1. 2019 年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：
報告書の回収および集計を行っている。
2. 地域連携組織に対する助成金による支援（子宮の日）について：
 - 1) 2020 年度の活動支援の申請件数 44 件（47 件中）
実施内容報告書を提出した地域学会に支援を行う。
助成金の交付は上限 5 万円を上限とした。
2021 年 3 月 30 日 調査集計最終 内訳
開催中止：12 件（未申請 3 件含む）
開催実施済：35 件
開催完了（送金済み）：33 件
開催完了（経費無し）：2 件
 - 2) 2021 年度の地域連携組織に対する活動支援は、支援費用については 5 万円を上限とし、希望地域は 2021 年 3 月末日までに企画書を提出するように依頼した。
申請件数 41 件（47 件中）
（中止 6 件：富山県、滋賀県、鳥取県、岡山県、山口県、長崎県）

[引き継ぎ事項]

なし

国際交流委員会（前委員長 榎本 隆之）

[事業計画]

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援
第 62 回日本臨床細胞学会総会春期大会；2021 年 6 月 4 日（金）～6 日（日）；千葉
第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会；2021 年 11 月 20 日（土）～21 日（日）；米子
※COVID-19 の影響により、第 62 回春期大会は海外演者の招聘なし（hybrid or web）
2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート
第 19 回日韓細胞診合同会議；2021 年 9 月 4 日（土） 韓国（予定）
第 28 回日-タイ細胞診ワークショップ；2022 年 1 月（未定）
3. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ 2021 の企画、運営
2021 年秋頃（未定）
4. IAC, ECC のサポート
Companion Meeting Japan in ECC 2020；2021 年 10 月 3 日（日）～6 日（水）

ポーランド・ヴロツワフ

5. オーストラリアとの交流
6. カンボジアとの交流サポート
2名分のトラベルグラントを計上、2021年秋期大会での招請が可能なように準備
7. 国際交流に関わる海外情報の収集および本学会からの発信

〔事業報告 2019年・2020年〕

A) 日-タイ交流

- 2019年1月16日(水)～18日(金)；第26回 タイ-日本 細胞診ワークショップ (チェンマイ)
- 2020年1月15日(水)～17日(金)；第27回 タイ-日本 細胞診ワークショップ：パタヤ

B) 日-韓交流

- 2019年9月7日(土)；第18回日韓細胞診合同会議 (ロッテリゾート東草)
- 2020年9月5日(土)；第19回日韓細胞診合同会議 (韓国) →2021/9/4に延期

C) 日-中交流

- 2019年6月14日-16日；中華医学会第十七回全国細胞病理学会 (山東省ウエイファン市) 招待講演 (岡輝明委員)
- 2019年11月16日-17日；第58回秋期大会 (岡山) Young Investigator Presentation in English (中国衛生部北京病院病理診断科・何淑蓉先生)

D) 日-豪交流

- 第60回総会 (東京)・第58回秋期大会 (岡山) への招請は実現せず

E) 日-カンボジア交流

春・秋学術集会への定期的な招聘 (国際・アジアフォーラム(Global Asia Forum))
として毎回2名分のトラベルグラントを計上

F) 日-米交流

- 2019年12月14日(土)～15日(日)；ジョンスホプキンス大学(JHU)-米国細胞病理学会(ASC)-日本臨床細胞学会(JSCC)合同ワークショップ (東京)
- 2020年度は中止・延期

G) 日-欧交流

- 2019年6月16日；Companion Meeting Japan in European Congress of Cytology 2019 (スウェーデン・マルモ)
- 2020年10月4日(日)～7日(水)；Companion Meeting Japan in European Congress of Cytology 2020 (ヴロツワフ) → 2021年10月3日(日)～6日(水)に延期され、Hybird形式に

〔引き継ぎ事項〕

1. ジョンスホプキンス大学(JHU)-米国細胞病理学会(ASC)-日本臨床細胞学会(JSCC) 合同 ワークショップの日程・会場調整；2021年秋頃
2. 第28回日-タイ細胞診ワークショップの調整；2022年1月頃
3. 第19回日韓細胞診合同会議 の調整；2021/9/4 予定
4. 本理事会で行ったグローバルアジアフォーラム関連業務内容の理解

制度審議委員会（前委員長 宮城 悦子）

〔事業計画〕

1. 成熟した社会に則した本法人のあり方を常に考え、学会内外から広く意見、提案を聴き、必要な制度改革を提案するとともに、本法人内においては各委員会等からの制度に関するコンサルテーションを受け、必要な提案を行う。
2. 理事会、総会承認に基づく定款、細則改定の実施。

〔事業報告 2019年・2020年〕

1. 下記承認案件を定款・施行細則に反映させた。
 - (ア) 知的財産権保有の放棄 (p. 14)
 - (イ) 役員等選任に関する施行細則 (p. 16)
 - (ウ) 旅費に関する施行細則 (p. 24)
 - (エ) 理事会運営に関する施行細則 (p. 28)
 - (オ) 委員会に関する施行細則 (p. 30)
 - (カ) 細胞診専門医資格認定試験施行細則 (p. 39)
 - (キ) 細胞診専門医資格更新実務に関する施行細則 (p. 45)
 - (ク) 細胞検査士資格認定試験施行細則 (p. 55)
 - (ケ) 細胞検査士資格更新実務に関する施行細則 (p. 60)
 - (コ) IAC 連絡委員会に関する施行細則 (p. 63)
2. 下記承認案件を内規・申合せ集に反映させた。
 - (ア) 各種委員会構成を決定する際の申し合わせ事項 (p. 3)
 - (イ) 公益社団法人日本臨床細胞学会雑誌投稿規定 (p. 13)
 - (ウ) 公益社団法人日本臨床細胞学会雑誌投稿規定 (英文) (p. 19)
 - (エ) 学術集会のあり方・申し合わせ (p. 49)
 - (オ) 所在等不明な名誉会員と功労会員に対する通信業務及び事務手続き中止に関する内規 (p. 62)
 - (カ) 喀痰細胞診標準細胞標本 取扱い内規 (p. 67)
3. 下記案件のコンサルテーションを受け、委員会審議を行った。
 - (ア) 日本臨床細胞学会雑誌投稿規定改定 (編集委員会)

- (イ) 公益社団法人日本臨床細胞学会 事務局職員就業規則改定（日本臨床細胞学会事務局）

〔引き継ぎ事項〕

特になし

医療安全委員会（前委員長 藤井 多久磨）

〔事業計画〕

1. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく（鑑定人およびそれに関する臨時の全域）
2. 医療安全セミナー開催予定

第 62 回日本臨床細胞学会総会春期大会

演題名：細胞診と医療の質・安全を考える

演者：群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学 教授／

群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 部長 小松康宏先生

座長：近畿大学奈良病院 病理診断科 部長 若狭朋子先生

日時：2021 年 6 月 5 日（土）15:40～16:40

第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会

演題名：病理・細胞診断の標準化のための IS015189（仮）

演者：岡山大学病院・病理部 教授 柳井広之先生

日時：未定

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1. MSC ホットラインの活動報告
今期、MSC ホットラインへの相談実績はなかった。
2. 医療事故調査機構の情報について
日本臨床細胞学会への調査要請は今のところない。

〔引き継ぎ事項〕

なし

倫理委員会（前委員長 竹島 信宏）

〔事業計画〕

年 2 回の医療倫理セミナーを春期大会、秋期大会で開催する。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

2020 年 11 月 22 日に第 59 回に日本臨床細胞学会秋期大会において、以下の医療倫理セミナーを行った。

『細胞診断学における医療倫理』 鬼島 宏先生

〔引き継ぎ事項〕

特になし

利益相反委員会（前委員長 板持 広明）

〔事業計画〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時の調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告に関すること。
3. 2020 年利益相反自己申告書の提出依頼をする。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

特記事項なし。

〔引き継ぎ事項〕

改訂された「細胞診断学に関連する医学研究の、利益相反に関する指針の施行細則細則」に沿うように、「細胞診断学に関連する医学研究の利益相反指針・細則に関する Q&A」の確認・改訂が必要。

臨床試験審査委員会（前委員長 田畑 務）

〔事業計画〕

1. 臨床試験審査委員会を 1 回、春期大会で行います。Covid-19 感染の影響で委員会が開催されない場合は、メール会議などで代用する場合があります。
2. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行います。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

2019 年、2020 年度では、新規に提出された臨床試験はありませんでした。

〔引き継ぎ事項〕

特にありません。

IAC 連絡委員会（前委員長 青木 大輔）

〔事業計画〕

1. IAC からの諸情報等について検討し対応する

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1. 第 21 回国際細胞学会 The 21st International Congress of Cytology, ICC2022 が 2022 年 11 月 14 日（月）～19 日（土）に アメリカのメリーランド州ボルチモアで開催される予定。第 70 回アメリカ細胞病理学会 the 70th Annual Scientific Meeting of the American Society of Cytopathology と同時開催。以上について周知した。

〔引き継ぎ事項〕

引き続き IAC からの諸情報を入手し適宜対応するとともに、必要に応じて学会内に周知する。

臨床試験ワーキンググループ（前委員長 進 伸幸）

〔事業計画〕

・『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究（CITRUS study）』（山梨県、千葉県柏市）の継続

本研究では、子宮頸がん検診において細胞診（LBC：液状化検体法）に HPV 検査を併用することの有用性について比較/検討するために、2013～2014 年度に症例登録（最終登録数：18,471 例）を行い、2015 年 4 月以後は登録症例の追跡調査を実施している。

2021 年度も引き続き被験者について検診実施医療機関、精密検査実施医療機関と協力して追跡調査を継続する。本研究は特定臨床研究として遂行されているためモニタリングおよび監査の必要がある。2021 年度は神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター モニタリング部により第 2 回中央モニタリングを実施する予定である。研究のデータマネジメント、モニタリングなどについては公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センターと、研究のデータ登録システム（EDC システム）についてはメディカルエッジ株式会社と協同して作業を行う。

現在日程として定まっている予定は以下の通りである。

・第 62 回 日本臨床細胞学会春期大会（プレジデンシャルシンポジウム）において、本研究内容の一部について発表を行う（2021/6/5）。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査

との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』

- ・ 研究の進捗状況
- ・ 最終登録数は 18,471 例であり、2015 年 4 月以後は登録症例について検診/精密検査実施医療機関と協力して 7 年間の追跡調査を実施している。
- ・ 本研究は特定臨床研究に該当するため、認定臨床研究審査委員会（慶應義塾臨床研究審査委員会）への申請を行い 2019 年 2 月 8 日に認可を受けた。認可後に関東信越厚生局へ実施計画を提出し、jRCT への登録（臨床研究実施計画番号：jRCTs031180313 公表日：2019 年 3 月 15 日）を完了した。
- ・ 中央モニタリング報告書、監査報告書を添付した上で、特定臨床研究としての定期報告を行い、2020 年 11 月 10 日に jRCT 上に公開された。
- ・ 初年度登録以降のある一定期間の経過が不明な被験者に対して、個別の追跡調査表の郵送及びその回答を回収・集計する「個別追跡調査」の施行に際して、研究計画書の修正を含めて臨床研究審査委員会に 2020 年 1 月に修正申請を行い、2020 年 6 月 25 日に承認された。2020 年 11 月よりこの個別追跡調査を開始している。

[引き継ぎ事項]

1. 研究期間の延長について

本研究は当初 2013～2014 年度に研究参加者の参加登録を行い、以後約 6 年間追跡調査、研究データの収集を行う予定であり、2013 年 4 月 22 日から 2021 年 3 月 31 日までの研究期間としていた。昨年度（2020 年度）の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、研究に関係する人的、物的な交流が滞ったこともあり、研究データの収集、データ解析の作業の遅延を余儀なくされていた。そこで、最終年度の検診結果の把握も含めたデータの収集、解析作業、論文公表を完遂するために、研究期間を 2023 年 3 月 31 日までと 2 年間延長させていただいた。

2. 研究資金について

2021 年度以降は契約に基づき、企業（ホロジック株式会社）から本学会への研究費の寄付は予定されていない。そのため、2021 年度以降は単年度ごとに、臨床試験ワーキンググループとしての事業計画、予算案を提出し、本学会の予算から研究費を拠出させていただく必要がある。

3. Publication について

最終的な論文を、研究期間内を目途に作成する。論文には日本臨床細胞学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（前委員長 森井 英一）

[事業計画]

1. 細胞診、特にセルブロック検体の作成方法の違いによる核酸の品質検討を行う。

2. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであるが、その品質保証についての実証実験はされていない。本ワーキングでは様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1. 会議をオンラインで複数回行い、指針の初版をまとめた。理事に回覧した後、HP にてパブリックコメントを得た。

〔引き継ぎ事項〕

パブリックコメントへの対応を行い、初版を完成する。

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ (前委員長 佐藤 之俊)

〔事業計画〕

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針作成の一部を担当した。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1. 液状化検体細胞診における検討を進める。

〔引き継ぎ事項〕

上記事業の継続

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ (前委員長 佐藤 之俊)

〔事業計画〕

1. IAC-WHO (IARC) が進める呼吸器細胞診国際基準の出版に協力する。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 構造異型の所見の標準化を目指し、細胞所見の WEB 公開を目指す。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

1. 本 WG において新たな 4 段階の判定基準を提案し、それが Acta Cytologica に掲載された。
2. 上記論文内容の一部をもとに国際的な呼吸器細胞診基準が IAC-WHO (IARC) から出版されることになった。

〔引き継ぎ事項〕

上記事業の継続

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（前委員長 森谷 卓也）

〔事業計画〕

1. 本邦におけるデータの収集を行い、解析する。
2. 成果を日本臨床細胞学会・日本乳癌学会・日本病理学会などで発表。
3. 結果を論文発表。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

特になし

〔引き継ぎ事項〕

特になし

細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ（前委員長 森谷 卓也）

〔事業計画〕

1. ワーキンググループのメンバー、および臓器・領域別の委員を選定する。
2. スケジュールを策定し、それに従って改定を進める。
3. 改定した内容を学術集会で発表、および学会ホームページ等で公表する。

〔事業報告 2019 年・2020 年〕

特になし

〔引き継ぎ事項〕

特になし

新しいがん検診スタイルに適応した細胞診専門医あり方検討ワーキンググループ

（前委員長 齋藤 豪）

〔事業計画〕

2020 年度で答申を終了しており新しい事情計画はありません。

〔事業報告 2020 年〕

第 1 回 2 月 20 日 第 2 回 3 月 16 日 第 3 回 4 月 13 日

構成メンバー

齋藤 豪（委員長 副理事長）

森井英一（総務委員長）

佐藤之俊（理事長）

前田一郎（学術委員長）

植田政嗣（専門医会長）

三上芳喜（婦人科細胞診領域）

伊藤 仁（検査士会長）

森定 徹（日本婦人科がん検診学会）

小田瑞恵（渉外広報委員長）

佐々木寛（監事 日本人間ドック学会関係）

WG 立ち上げの目的

各種がん検診において細胞診は検診手法としてあるいは精密検査で用いられるなど、その貢献度は広く認識されています。こうした中、子宮頸がん検診に関して、2020年7月には国立研究開発法人国立がん研究センターより「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2019年版」が更新版として公開されました。今後も各種がん検診について、エビデンスに基づくガイドラインの更新が継続されていくと考えられます。このようながん検診を取り巻く環境の中で、細胞診専門医は検診のスタイルを理解し、その変化に柔軟な対応を行っていく必要があると思われまます。

そこで、本学会において、がん検診における細胞診専門医の方向性を議論するための「新しいがん検診スタイルに適応した細胞診専門医あり方検討ワーキンググループ」を、理事長諮問委員会として新たに設置しました。

WG としての答申

- 細胞診に関する検体採取やその取扱い、がん検診の精度管理について、更には細胞診やそれに関わる分子生物学的な手法を用いたがん検診業務に精通した臓器別エキスパートを日本臨床細胞学会として教育・養成する。ここでいう精度管理とは細胞診断の精度およびがん検診を事業としてとらえ、その質を徹底的に管理して高い水準を保つことを意味する。
- 社会的ニーズとして先ず子宮頸がん検診で用いられる子宮頸部細胞診から始めるが、今後他臓器にもエキスパートを広げてゆく。

名称案

細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸部部門）

[引継ぎ事項]

特になし。佐藤 理事長から専門医委員会との強い連携でこの流れを進めてもらいたい旨のコメントがあった。

2021・2022 年度年間スケジュール

2021・2022 年度年間スケジュールの予定が報告された。

2021・2022 年度委員会構成

2021・2022 年度委員会構成の報告が行われた。

会員資格停止者について

該当者なしであることが報告された。

審議事項 1. 会員資格復帰希望者について

会員資格復帰希望者一覧の報告が行われ、全員の復帰が承認された。

審議事項 2. 2024 年度（第 65 回）春期大会長選出について

森井英一 新副理事長が選出・承認された。副会長は井上健 理事、若狭朋子 理事で、会場は大阪国際会議場を予定している旨の報告も行われた。

※学術集会長候補者の選出メンバーは以下のとおりであり、選出作業は本理事会開催前に前もって行われた。

理事長 佐藤之俊

前理事長 青木大輔

前副理事長 川本雅司、齋藤豪、中村直哉、森谷卓也

学術委員会委員長 前田一郎

（役員等選任に関する施行細則第 2 条より）

審議事項 3. その他

「過剰診断」に関する日本臨床細胞学会、日本病理学会への要望書に対する学会対応について→日本病理学会と連携し、学術団体としての本件に関するスタンスを明確にして、学術団体としての意見を出す方針が承認された。この際、甲状腺の専門家や疫学専門家の意見もふまえて学術団体としてのスタンスを明確にする方針も確認・承認された。要望書の内容は以下の通りである。

「過剰診断」につきまして：

私たちは、国と福島県からの委託をうけて福島県立医科大学が行っている福島県県民健康調査・甲状腺部門病理診断コンセンサス会議のメンバーです。この会議では、2011 年 3 月の東日本大震災に引き続いて生じた東京電力福島第一原子力発電所事故後に発生が危惧された小児甲状腺癌の検診や、超音波検査・穿刺吸引細胞診の結果を加味して行われた甲状腺手術検体の最終組織診断を下しております。あわせて、手術にいたる過程での臨床的判断、超音波検査・細胞診の判定内容や手術の妥当性の検証を行っています。これまで経験した手術症例には、過剰診断・過剰手術・過剰治療に該当するものはなく、そのことはすでに論文発表でも明らかにしております。

ところで、病理医・細胞診専門家（細胞診専門医・細胞検査士）にとっては、過剰診断

overdiagnosis は誤診の一型です。顕微鏡所見により本来よりも重篤な病態であるという誤った判断を下すことを意味します。良性病変を癌であると判断してしまうようなミス指します。

ところが、疫学者らは、本来は行う意味のないと思われる、検査対象の広いスクリーニング検査にネガティブなイメージをこめて、過剰診断という用語を用いています。疫学者らが使う過剰診断には、組織診・細胞診の誤診の意味はふくまれず、単に検査のやりすぎのみに特化されています。

疫学者らは、検査と診断の違いは特に考慮せず、病理診断は正しくても不必要に適応を広げて行われたスクリーニング検査を、それ自体は検査そのものであるにもかかわらず過剰診断と呼んでいます。例えば、私たちが関与している福島県民健康調査に関しても、”このプロジェクト自体は過剰診断である”という表現を用いて、学会・論文発表やマスコミへの発言を行っています。つまり、”福島県民健康調査では過剰診断が行われている、あるいはその可能性がある。”と言われますと、一般的には誤診症例が含まれていると誤解されかねません。このようは誤解を避けるためにも、私たちは、疫学者らが用いている過剰診断は過剰検査と表現を変えてもらいたいと希望しています。過剰検査は検査のやりすぎ、過剰診断は誤診に用いるという棲み分けを是非していただきたいと思います。

このためには両学会にてご検討いただき、この混乱状態を抜け出す一助として、過剰診断という用語の使い方に関して、日本病理学会・日本臨床細胞学会両学会連名の合同アピールを出していただきたいと思います。病理診断コンセンサス会議の総意としては、①過剰診断は、病理診断（組織診・細胞診）の誤診に限って用いること、②従来、疫学者らが用いてきた過剰診断は過剰検査といいかえること、の2点を強く要望します。さらに、両学会におかれましては疫学関係の然るべき学術団体と折衝していただき、この立場を共有していただけるように働きかけていただければ幸いです。

2021年（令和3年）5月

福島県民健康調査病理診断コンセンサス会議

委員長；坂本 穆彦（大森赤十字病院検査部）

委員： 廣川 満良（隈病院病理診断科）

伊東 正博（NHQ 長崎医療センター病理診断科）

長沼 廣（仙台赤十字病院病理診断科）

鈴木 理（福島県立医大病理病態診断学）

橋本 優子（福島県立医大病理病態診断学）

連絡先：坂本 穆彦

〒143-8517 東京都大田区中央 4-30-1

大森赤十字病院検査部

電話番号 03-3775-3111 Fax 03-3775-0004

e-mail アドレス a-sakamoto@omori.jrc.or.jp

本日のインターネット会議システムを併用した理事会は終始異状なく議題の審議を終了したので、議長は閉会を宣言した。

以上で本理事会の議題が終了し、齋藤豪 副理事長の閉会挨拶をもって本理事会を終了した。

2021年 7月30日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛



監事 土屋 眞一



